

## Improvement Of Teaching Methods(9)

### 教材

校長

授業は生徒、教員、教材(教材教具)によって構成されます。生徒と教員の間には教材が媒介され、授業は成立します。教員が授業を計画するには、教材研究は欠かせません。教材研究が授業成功の可否を大きく左右するといっても過言ではありません。教材研究は、教員が授業の内容である知識を深めたり、技能を向上させたりする授業準備です。

教材は、教員にとっては生徒に獲得させたい教科内容の事物・事象であり、生徒にとっては学習の直接の対象となる事物・事象です。教科内容は自然科学、人文科学、社会科学などの中から選んだ抽象物であり、それに対して教材は具体的な事物(事実・現象・言語等)です。教材の中から生徒に学ばせたいと思うものを見出すためには、教材研究に努め、授業を構想するために教材解釈が重要となります。

#### 教材研究のポイント

1. 教科内容に基づく教員の教材に対する解釈→学習指導案の「教材観」に教科の専門的解釈、「指導観」に専門的解釈を基盤とした教授的解釈を行います。
2. 教材に対する生徒の解釈を、教員が的確に把握→学習指導案の「生徒観」に書きます。また、生徒との応答予想も指導過程に書きましょう。応答関係で、生徒に揺さぶりや躓きなどが生まれることが、展開のある授業になるのです。アクティブ・ラーニング型の授業では、当然、生徒間の応答関係を予想しておく必要があります。

#### 注意点

1. 生徒は受動的な存在であることが一般的です。記憶させた知識量が教授の成果と考えてはいけません。→暗記主義や知識注入主義、説明一辺倒の授業に陥ってはいけません。
2. 生徒が分からないのは、怠慢や不注意、集中力不足、寝ているからなど、生徒の所為にしてはいけません。まずは、自分の教材研究の不足を考えてみましょう。
3. 教材と教具は同一の対象を指すものとして「教材教具」と表す場合と、両者を区別する場合があります。区別する場合、一般的に「教材」は教育目標を達成するための材料、「教具」は教材を効果的に修得させるための道具を示します。